

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100760		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター岡山平田		
所在地	岡山県岡山市北区平田163-118		
自己評価作成日	平成 29年 10月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100760-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できる限りご利用者様の希望こたえていけるようにスタッフで日々話し合いを持っている。外出が難しいご利用者様もいるので、年に1回のご家族を含めたバス旅行やボランティアの方やスタッフが手入れをしている庭を散歩するなど個々の対応を増やし 親睦や気分転換を図ってもらっている。また、月に1～2回のボランティアによるレクリエーションや季節ごとの行事も参加してもらいホームでの生活を楽しんでいただいている。スタッフもご利用者様に安心して生活をしていただけるように研修を月に1～2回行い スキルアップを図り、体調に変化が見られた場合や緊急時の時の連絡体制も明確にし、スタッフだけでなくご利用者様、ご家族様の安心・安全に繋がるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

手入れされた庭(ほぼえみガーデン)には、秋になるといちじくの木や季節の花(なでしこ、菊やアメジストセージ)等が植えられ、単調な生活に潤いを与えている。入居者同士の関わりは深く、相互に部屋を訪れて交流したり、互いを気遣いながら生活を楽しめるよう支援をしている。スタッフの優しく丁寧な声掛けやいつも笑顔での対応、家族の話に快く耳を傾ける姿勢は、当事者の安心につながっている。バスや介護タクシーをチャーターして小旅行を計画し、家族と自主的に集まるボランティアと共にサウスビレッジに出かけ、買い物や周辺の散策を通して楽しい思い出作りの支援をしている。近隣のボランティアが自主的に集まり、庭の花の手入れや入居者と共に楽しむ暮らしは、近所の評判もよく、近隣からの入居者が増える実績に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の経営理念と社是を毎日申し送りやミーティング時に唱和している。	経営理念を毎日唱和して共有を図っている。認知症ケアにおける、支援すべき方針を明示して(利用者志向、尊厳、安心、プライバシーの確保)、取り組み方の研修を重ね、実践に繋がるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事を町内の回覧で知らせている。業務時間内外にとらわれず、挨拶をきちんとするように心がけている。 地域の行事のとき等に町内の人から声を掛けてくれるようになった。	地域に「ボランティア募集」を呼びかけ、地域の方による庭の手入れや外出時のボランティアによる支援に繋がっている。劇団、オカリナ、ギター演奏等を受け入れ、楽しくつきあいながら暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出の機会を設けたり、いつでも見学ができるようにし、地域の方々と交流を持ち認知症の人への理解が深まるよう努めている。年に1～2回だが、近所の方が通りすがりに悩みを話したりホームのことを聞かれる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況報告と共にご家族との意見交換を行いサービス向上に努めている。 地域包括の方の参加や、歯科・薬剤師・看護師なども参加してくれている。	歯科医師の参加があり、治療の内容や、誤嚥予防などの質問に応じている。外出の際の出来事や、バス旅行の日程の話し合いをしてサービスに活かしている。薬剤師、看護師の参加がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの方に運営推進会議の案内を郵送したり、月に1回挨拶に伺ったときに近況を説明をさせていただいている。	運営推進会議に地域包括の参加もあり、高齢者虐待に関するパンフレットの配布と説明を受けている。県や市の研修に参加し、協力関係を築くよう取り組んでいる。「ほほえみ便り」を発送し、活動の報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修を行いスタッフ全員が理解している。緊急やむを得ない場合に限り家族の同意のもと対処し解除に向けての取り組みもしている。	内部研修にて拘束に関する具体的な行為を十分に理解し、実践に繋げている。現在ベッドからの転落などの防止のため、家族の同意を得て、緊急性・非代替性の適用にて四本柵をするのではなく床対応を試みている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修を行い、スタッフ全員が理解している。 気になることはすぐに上長に相談をするようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者が発生した時には対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時には時間をとって説明させて頂き、十分に理解・納得の上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い意見交換している。家族が来訪の際に要望を聞くようにしている。玄関に意見箱を設置している。	毎月「ほほえみ便り」を発行し、月行事の案内や活動の様子を写真にて報告し、意見を聞く機会としている。入居契約時、家族会や運営推進会議時に意見を聞く機会を設けている。	アンケートの結果を家族の意見と捉え、スタッフ全員で考慮され、運営に活かされる事を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やホーム会議を開催して意見交換した上で反映させ、必要場合は支店会議等で検討してもらっている。	管理者とスタッフの関係は良好で、個人的に毎日1回は話し合いが出来るように努めている。外部の研修に参加して専門性を高め、運営に関する意見や提案に活かされている。毎日の申し送り時に話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり合格すれば時給が上がる。 時給自体も上がり、勤務年数によっても時給が上がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や県が開催の研修に積極的に参加できるようにしている。毎月支店・拠点でも研修も行っているため、参加希望があれば勤務の調整をする。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を通じて交流できている。リーダー・管理者・ケアマネはミーティング等で市内の他グループホームを相互に訪問したり情報交換してサービスや技術の向上に努めている。外部の研修も参加している。		

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行いサービス担当者会議を開催して本人の要望がかなえられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行いサービス担当者会議を開催して家族の要望がかなえられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にアセスメントを行いサービス担当者会議を開催して本人や家族の要望も聞きながら最善の対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や園芸等など、一緒に出来ることを探しながらスタッフと行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入居者のホームでの様子を家族に手紙で伝えたり、面会時にも伝えている。問題が起きたときは家族とも話し合いをする。家族と共に外出や外食が自由にできている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じて馴染みの人に来て頂いたり、今まで行っていた所にも家族と共に自由に外泊や外出をしている。	家族会の参加は多く、家族との団欒の場、関係継続の支援となっている。月行事に馴染みの関係となっている劇団や歌、オカリナ、ギター演奏のボランティアとの交流は楽しみとなっている。健康財団の祭りに招待され家族と共に参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士は互いに訪室している。 職員が間に入り会話が出来るようにしたり、居室間の行き来もできるように配慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方には営業等で訪問した際に様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の要望がかなえられるように努めている。センター方式を使用し本人の立場に立ったケアができるように検討している。	家族からの情報やセンター方式にて詳細に情報収集を行い、そこから思いや意向の把握に努めている。日々の記録から状態の変化を知り、意向の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを行い、本人との関わりにより把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録に残し毎日 申送りやユニット会議を通じて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険の更新時と概ね4ヶ月に1回サービス担当者会議を行い家族の要望も取り入れた介護計画書を作成している。	サービス担当者会議を開催し、合わせてモニタリングを行いながら介護計画の進捗状況を考慮し、必要に応じて見直しをしている。穏やかに過ごせる事を基本とし、問題点の改善を図るプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に残し申送りを行い情報共有し必要に応じて検討して介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズにも職員間で話し合い、対応している。 必要に応じて通院や買い物に同行し、食事や使用するおむつ等も個別に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気候の良い時には積極的に外出をし、桜の時期には近くの公園や庭で花見をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による定期的な訪問診療の他に家族対応にて提携医以外にも受診できるように支援している。	24時間対応の提携医による往診が介護度別にある。家族対応にてかかりつけ医の受診が出来るよう支援している。訪問歯科は家族契約で週1回の診療がある。毎週1回、訪問看護師による健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回訪問看護師に体調を把握してもらっている。 体調に変化があった場合や対応に苦慮する場合には提携医院の看護師に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族や医療機関と連携し介護サマリイ等で情報交換し早期退院に向けて対応している。退院時にはアセスメントも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にも重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合は、今後の方針について家族や提携医と連携して家族や本人が望むケアが出来る様に取り組んでいる。	入居契約時に終末期の事業所で出来ることを説明し、家族が希望すれば医療処置がない場合のみ看取りを受け入れている。水分が摂取できなくなった時等、終末期の対応を明確にして支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習を受けたり毎年定期的に研修を行い、急変や事故発生時には提携医とも連携し、マニュアルに従って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災報知設置及び火災通報装置やスプリンクラーも完備できている。年2回の避難訓練には消防署にも参加してもらい消火・避難・誘導の徹底を周知行っている。	避難訓練は避難計画に基づき実施している。水害時に入居者を二階へ移動する取り組みについて協議をしている。訓練後、近隣に報告し、避難時の取り組みに関して理解をもらいながら地域との協力体制に繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に声掛けをする時にはプライバシーに配慮すると共に介助を必要とする時も尊厳を重視して対応している。年内の研修計画にも「プライバシーの保護」を組み込んでいる。	スタッフの入居者に対する会話は丁寧で優しい言葉遣いで対応をしている。本人の意思を尊重し無理強いしない対応を心がけている。プライバシー保護や接遇研修を受け、取り組みに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の意思を尊重し、介助が必要な場合も声掛けの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や朝食は特に時間を決めておらず、ある程度本人の意思に任せている。行事やレクの参加も本人の希望に添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理美容を実施している。化粧をする入居者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり食べたい物を聞き、できるだけ応じている。能力に応じて準備や片づけを一緒にしている。	一汁2～3品とデザートバラエティーに富んだメニューとなっていて、健康の為薄味、柔らかめで食べ易いものが提供されている。本人に嗜好を聴き、誕生日のメニューに反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを毎日行い摂取量に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、見守りや介助を行っている。提携歯科の訪問時にも助言をして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握しトイレ誘導している。おむつやパットも個人の状況に応じて使い分けている。	扉に注意書きと「お手洗」と大きく表示して自立を促す支援をしている。排泄パターンを知り、定時に誘導している。野菜摂取に努め、水分チェックをして体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた料理にしたり、水分量のチェックを行い対応している。 毎朝、ラジオ体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を参考にして入浴している。拒否のある方にも声掛けの工夫をしている。	週2回の入浴となっている。本人に入浴の意思を確認して誘導しているが拒否する場合は「明日入りましょうね」と約束を交わし無理しいはしない。立位の困難な方は男性スタッフと二人介助にて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子観察を行い必要に応じて日中でも臥床を促している。室温管理にも留意し安心して眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを準備し処方の変更時には口頭・管理日誌にて周知徹底している。服薬マニュアルも周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを兼ねて役割を持って頂いている。身体を動かすレクリエーションだけでなく、唄など楽しめる工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気温や天候を見計らい出来るだけ外出や庭を散歩する機会を設けるようにしている。近くには桜のある公園もあり花が咲く時季には何度も花見に行ける。	外気浴、気分転換に事業所の庭の「ほほえみガーデン」に出て、季節毎の花を楽しんでいる。桜の時期には気分転換を兼ねて庭に何度も出て花見をしている。家族や地域のボランティア付きで小旅行に出かけ、買い物や散策を楽しんでいる。	家族とボランティア付き添いの小旅行、これからも継続して計画されることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望に応じてお金を所持している。お小遣いをお預かりし、必要に応じて職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族に電話する事もある。 毎日電話をする方もいる。 手紙も自由にやり取りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような花や絵を飾り、行事を行っている。	玄関先には鉢植えの季節の花を飾り、外出帰りの入居者や訪問者を迎えてくれる。広い庭は花壇に整備され、気分転換を兼ねた散歩コースとなっている。リビングから掃出しのウッドデッキに出られ、庭の花を見ながら女子会の場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が交流できるように工夫している。入居者が互いに訪室して女子会をする事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れている物を出来るだけ持ってきて頂き、家族やペットの写真なども飾れるようにしている。	入り口に表札と個室のプライバシーを守るための張り紙をして他室者が間違って入室しないよう配慮をしている。居室はきれいに片づけられていて、テレビ、写真、ぬいぐるみ、椅子等を持ち込んで自分の部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札を掛け、トイレは表示している。できる事はして頂き、出来ない事への援助を心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100760		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター岡山平田		
所在地	岡山県岡山市北区平田163-118		
自己評価作成日	平成 29年 10月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100760-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成29年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できる限りご利用者様の希望こたえていけるようにスタッフで日々話し合いを持っている。
外出が難しいご利用者様もいるので、年に1回のご家族を含めたバス旅行やボランティアの方やスタッフが手入れをしている庭を散歩するなど個々の対応を増やし 親睦や気分転換を図ってもらっている。
また、月に1～2回のボランティアによるレクリエーションや季節ごとの行事も参加してもらいホームでの生活を楽しんでいただいている。
スタッフもご利用者様に安心して生活をしていただけるように研修を月に1～2回行い スキルアップを図り、体調に変化が見られた場合や緊急時の時の連絡体制も明確にし、スタッフだけでなくご利用者様、ご家族様の安心・安全に繋がるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の経営理念と社是を毎日申し送りやミーティング時に唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事を町内の回覧で知らせている。業務時間内外にとらわれず、挨拶をきちんとするように心がけている。 地域の行事のとき等に町内の人から声を掛けてくれるようになった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出の機会を設けたり、いつでも見学ができるようにし、地域の方々と交流を持ち認知症の人への理解が深まるよう努めている。 年に1～2回だが、近所の方が通りすぎりに悩みを話したりホームのことを聞かれる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況報告と共にご家族との意見交換を行いサービス向上に努めている。 地域包括の方の参加や、歯科・薬剤師・看護師なども参加してくれている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの方に運営推進会議の案内を郵送したり、月に1回挨拶に伺ったときに近況を説明をさせていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修を行いスタッフ全員が理解している。緊急やむお得不い場合に限り家族の同意のもと対処し解除に向けての取り組みもしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修を行い、スタッフ全員が理解している。 気になることはすぐに上長に相談をするようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者が発生した時には対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時には時間をとって説明させて頂き、十分に理解・納得の上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い意見交換している。家族が来訪の際に要望を聞くようにしている。玄関に意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やホーム会議を開催して意見交換した上で反映させ、必要な場合は支店会議等で検討してもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり合格すれば時給が上がる。 時給自体も上がり、勤務年数によっても時給が上がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や県が開催の研修に積極的に参加できるようにしている。毎月支店・拠点でも研修も行っているため、参加希望があれば勤務の調整をする。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を通じて交流できている。リーダー・管理者・ケアマネはミーティング等で市内の他グループホームを相互に訪問したり情報交換してサービスや技術の向上に努めている。外部の研修も参加している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行いサービス担当者会議を開催して本人の要望がかなえられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行いサービス担当者会議を開催して家族の要望がかなえられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にアセスメントを行いサービス担当者会議を開催して本人や家族の要望も聞きながら最善の対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や園芸等など、一緒に出来ることを探しながらスタッフと行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入居者のホームでの様子を家族に手紙で伝えたり、面会時にも伝えている。問題が起きたときは家族とも話し合いをする。家族と共に外出や外食が自由にできている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じて馴染みの人に来て頂いたり、今まで行っていた所にも家族と共に自由に外泊や外出をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士は互いに訪室している。 職員が間に入り会話が出来るようにしたり、居室間の行き来もできるように配慮する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方には営業等で訪問した際に様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の要望がかなえられるように努めている。センター方式を使用し本人の立場に立ったケアができるように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを行い、本人との関わりにより把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録に残し毎日 申送りやユニット会議を通じて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険の更新時と概ね4ヶ月に1回サービス担当者会議を行い家族の要望も取り入れた介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に残し申送りを行い情報共有し必要に応じて検討して介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズにも職員間で話し合い、対応している。 必要に応じて通院や買い物に同行し、食事や使用するおむつ等も個別に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気候の良い時には積極的に外出をし、桜の時期には近くの公園や庭で花見をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による定期的な訪問診療の他に家族対応にて提携医以外にも受診できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回訪問看護師に体調を把握してもらっている。 体調に変化があった場合や対応に苦慮する場合には提携医院の看護師に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族や医療機関と連携し介護サマリイ等で情報交換し早期退院に向けて対応している。退院時にはアセスメントも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にも重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合は、今後の方針について家族や提携医と連携して家族や本人が望むケアが出来る様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習を受けたり毎年定期的に研修を行い、急変や事故発生時には提携医とも連携し、マニュアルに従って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災報知設置及び火災通報装置やスプリンクラーも完備できている。年2回の避難訓練には消防署にも参加してもらい消火・避難・誘導の徹底を周知行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に声掛けをする時にはプライバシーに配慮すると共に介助を必要とする時も尊厳を重視して対応している。年内の研修計画にも「プライバシーの保護」を組み込んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の意思を尊重し、介助が必要な場合も声掛けの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や朝食は特に時間を決めておらず、ある程度本人の意思に任せている。行事やレクの参加も本人の希望に添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理美容を実施している。化粧をする入居者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり食べたい物を聞き、できるだけ応じている。能力に応じて準備や片づけを一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを毎日行い摂取量に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、見守りや介助を行っている。提携歯科の訪問時にも助言をして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握しトイレ誘導している。おむつやパットも個人の状況に応じて使い分けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた料理にしたり、水分量のチェックを行い対応している。 毎朝、ラジオ体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を参考にして入浴している。 拒否のある方にも声掛けの工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子観察を行い必要に応じて日中でも臥床を促している。室温管理にも留意し安心して眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを準備し処方の変更時には口頭・管理日誌にて周知徹底している。 服薬マニュアルも周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを兼ねて役割を持って頂いている。身体を動かすレクリエーションだけでなく、唄など楽しめる工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気温や天候を見計らい出来るだけ外出や庭を散歩する機会を設けるようにしている。近くには桜のある公園もあり花が咲く時季には何度も花見に行ける。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望に応じてお金を所持している。お小遣いをお預かりし、必要に応じて職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族に電話する事もある。 毎日電話をする方もいる。 手紙も自由にやり取りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような花や絵を飾り、行事を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が交流できるように工夫している。入居者が互いに訪室して女子会をする事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れている物を出来るだけ持ってきて頂き、家族やペットの写真なども飾れるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札を掛け、トイレは表示している。できる事はして頂き、出来ない事への援助を心掛けている。		